

## 令和4年度調査レベル設定値について

### 1 モニタリングステーションにおけるNaI(Tl)検出器による空間ガンマ線量率

調査機関	局名	単位	平均値 (M)	標準偏差 ( $\sigma$ )	調査レベル (M+3 $\sigma$ )	
			令和3年度	令和3年度	令和4年度	(参考) 令和3年度
宮城県	女川	n Gy/h	29.3	2.2	36.1	35.7
	飯子浜		42.7	2.1	49.0	49.6
	小屋取		48.9	2.2	55.5	56.5
	寄磯		36.8	1.9	42.6	43.6
	鮫浦		50.6	2.3	57.6	58.1
	谷川		49.1	2.2	55.6	56.4
	荻浜		54.9	2.0	60.9	61.9
東北電力	塚浜		49.0	2.4	56.3	57.0
	寺間		39.5	2.2	46.0	46.0
	江島		33.3	2.0	39.2	39.5
	前網		55.4	2.0	61.4	62.2

### 2 海水(放水)中の全ガンマ線計数率

調査機関	局名	単位	平均値 (M)	標準偏差 ( $\sigma$ )	調査レベル (M+3 $\sigma$ )	
			過去2年間	過去2年間	令和4年度	令和3年度
東北電力	1号機放水口 モニター (A)*	c p m	267	20	326 (4月1日～定期点検前)	329 (4月1日～定期点検前)
			292	18	346 (定期点検後～3月31日)	334 (定期点検後～3月31日)
	1号機放水口 モニター (B)*		252	17	304 (4月1日～定期点検前)	311 (4月1日～定期点検前)
			271	19	327 (定期点検後～3月31日)	311 (定期点検後～3月31日)
	2号機放水口 モニター		424	8	449	448
3号機放水口 モニター	473	9	500	501		

\* 1号機放水口モニターでは、定期点検時に検出器を交換するため、調査レベルを定期点検前後に分けて設定した。

なお、調査レベルは、下記の期間の平均値及び標準偏差から算出した。

1号機放水口モニター(A)上段 令和2年4月1日～令和2年10月22日、令和4年1月20日～令和4年3月31日

1号機放水口モニター(A)下段 令和2年10月23日～令和3年6月3日、令和3年7月4日～令和4年1月19日

1号機放水口モニター(B)上段 令和2年4月1日～令和2年11月9日、令和4年2月9日～令和4年3月31日

1号機放水口モニター(B)下段 令和2年11月10日～令和3年6月3日、令和3年7月4日～令和4年2月8日

令和3年6月4日～令和3年7月3日のデータについては、RCWS全停期間中であり特異なデータであったことから、統計データから除外した。(第157回環境調査測定技術会にて説明済)

(参考)

## 空間ガンマ線量率監視における調査レベルの変遷

$$\text{調査レベル} = \text{平均値} + \text{標準偏差} (\sigma) \times n$$

該当時期	平均値の算出期間	標準偏差( $\sigma$ )の算出期間 (設定する変動幅)	見直し時期
福島第一原発事故前	過去2年度	過去2年度の3倍	年度毎
福島第一原発事故後は、いったん大幅に上昇した線量率が、放射性核種の物理学的半減期等により急速に減衰していったため、過去2年度の平均値及び標準偏差の3倍が「平常の変動幅」とは見なせなくなり、一定の監視水準を保つために調査レベルに係る算出方法の変更が必要となった			
平成23～24年度	前月	平成20・21年度の2倍	月毎
平成25～26年度	前四半期	前四半期の2倍	四半期毎
平成27年度	前2四半期	前2四半期の3倍	四半期毎
平成28年度～	前年度	前年度の3倍	年度毎